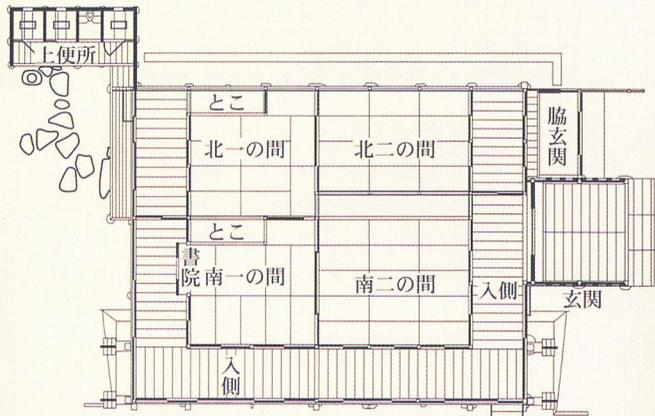


書院平面図



重要文化財指定 昭和27年3月29日
 構造及び形式 懸造 桁行14.37m 梁間11.47m 一重入母屋造
 玄関 桁行 3.43m 梁間 3.73m 唐破風造
 総こけら葺

書院の建築

この書院は居館の中でも接客に用いられた最も重要な建物でした。南の3分の1を崖上に突出した懸造りの書院は全国的にも珍しい遺構ですが、城郭の書院らしい構造です。玄関はもとは御用所の正面に設けられていたものを明治の初めに移したものです。玄関は柱上に組物を置き、正面虹梁上には家紋の三階菱を飾った蓑股を据えて、旗本館の玄関らしい堂々たる構えです。

書院は田字型四室の平面で、東南西の三方に一間巾の入側縁を廻らしています。南一の間には床と窓をもつ付書院が設けられ、二の間には三間一杯に大床が備えられています。次の間に大床を設けるのは特に格式の高い形式で、天井も南二室は格天井を用いています。北側も一の間に床があり、二の間はひかえとなっていますが、こちらは内向きの部屋らしく全体に簡素で棹縁天井です。廊下のような広縁を座敷の周囲に設けるのは座敷の格式の高いことを示すため、このような平面は桃山～江戸初期の書院の典型的形式です。南入側中央に竹の節欄間を置いた間仕切を設け、杉戸を立てていますが、杉戸構えも書院の格式を高める常套手法です。入側縁の外は中敷居を入れた低い窓状の開口部とし、明障子を立てて外側に雨戸を引いています。雨戸も現在見ると何でもない建具ですが、中世には雨戸は未だなく、桃山時代になって発明されたもので書院の外回り全体に雨戸を用いるのはやっと寛永頃から普及したのですから、この書院は当時としては進歩した工法を取り入れております。建物全体の意匠も秀れ、座敷の構えも端正な形式ですから、この建物は土地の大工ではなく、中央の正式な書院を学んだ工匠の手のよったものです。地方豪族の居館で江戸初期にさかのぼる書院遺構は全国でもこの小笠原家一棟しかありません。正規の書院形式ながら、建物全体としては地方豪族らしい質実剛健のおもむきが強く、当時の邸宅の姿を伝える重要な遺構です。

文化庁建造物課 鈴木嘉吉技官



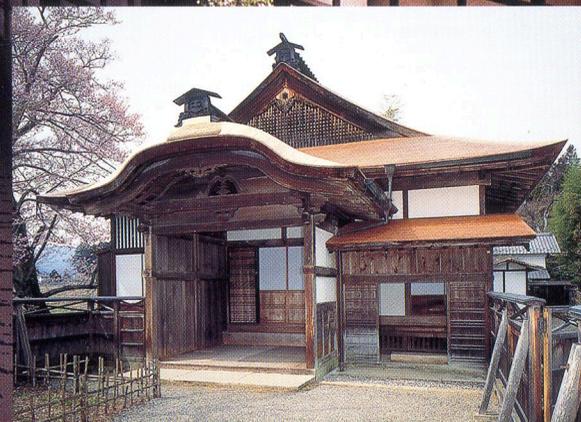
入館料 大人300円(団体200円)
 子供150円(団体100円)
 団体:20人以上 子供:小、中学生
 休館日 月曜日、祝祭日の翌日、年末年始
 開館時間 3月1日～11月30日の間 午前9時～午後5時
 12月1日～翌年2月末日の間 午前9時～午後4時

◎火気の使用、危険物の持ち込みは禁止します。
 ◎許可なく展示品の模写・写真撮影はできません。

飯田市旧小笠原家書院・小笠原資料館
 〒399-2434 長野県飯田市伊豆木3942-1番地
 TEL・FAX0265-27-4178
 お問い合わせ:飯田市教育委員会TEL0265-22-4511



重要文化財 旧小笠原家書院 小笠原資料館



飯田市教育委員会

旧小笠原家書院

伊豆木小笠原家は初代長巨が慶長5年(1600)に武蔵国(埼玉県)本庄から移封されたのが始まりです。長巨は徳川家康から信濃国伊那郡のうち10万400石を支配するよう命ぜられ、その庄内の伊豆木に株料として千石の地をたまり、ここに居館を構えました。その遺構の一部が旧小笠原家書院で元和3年(1617)の建設と伝えられています。伊豆木小笠原氏は中世松尾城(約7キロ北東にある)に拠って当地方で勢力をふるった松尾小笠原家の一族で、天正18年(1590)本庄へ移っていたのを再び旧地に帰ったもので、伊那地方での中世以来の名家でした。

伊豆木に屋敷を構えたのはここが中世に城のあった要害の地だったからです。今でも屋敷の裏山には空堀や曲輪の跡が残っていて、城山と呼ばれています。館(やかた)は小さな城郭の形であったことが古図から判ります。大手橋から坂を登ると城門と物見櫓があり、門内は枳形をなして、ここから右手に折れ曲り石垣上の台地へ出られました。台地上には、供侍所・厩舎があり、つき当りに玄関を備えた御用所があって、その裏側に書院・居間・御守殿・台所など数多くの建物が建ち並んでいました。これは中世以来の土豪の典型的な居館構えでしたが、残念ながら明治5年の帰農に際し、これらの城郭建築はすべて取り払われ、この書院と玄関だけが残されました。幸い旧城門や物見櫓の石垣が残されていて、本来の城郭の構えがほぼ判ります。

書院と玄関は昭和27年に国の重要文化財に指定されましたが、建物と共にこの屋敷地や裏の城山まで含めた一帯が貴重な城郭遺跡です。



書院の建立年代と復元

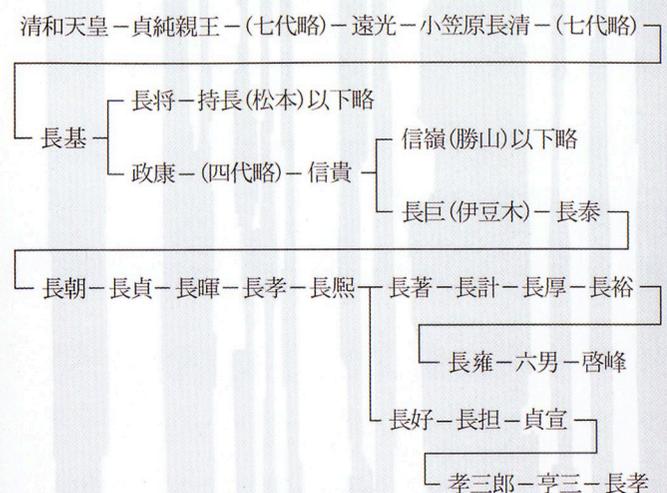
書院は昭和44~45年の修理で「寛永」の墨書が発見され、寛永初期(1624~1634)頃完成したことが判りました。幸い軸組や主要構造材はよく保存されており、修理は半解体を行い、創建当時の姿に復元されました。

解体修理から38年が経過した平成20年、傷みが進んだ書院と玄関の屋根について「こけら葺」の全面葺き替え作業を実施し、美しい屋根の姿を再び復元しました。



● 小笠原屋敷古図

小笠原家系図



資料館平面図



鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造)
 建築面積: 435.00m²
 床面積: 508.98m²

妹島和世と西沢立衛との建築家ユニットSANAAの設計で1999(平成11)年に竣工しました。SANAAは、2010年に建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を受賞しています。

主な展示内容

◇伊豆木小笠原家の出自と系譜

清和天皇の第六皇子貞純親王から興った小笠原家の系図をはじめ伊豆木千石の受永状・江戸城の呼出状・馬印・紋譜・歴代の花押・鎧兜・陣笠・道中羽織・刀懸・刀・刀筒・槍・薙刀・矢筒・矢などが展示されています。

◇小笠原流を伝える小笠原家

小笠原流の秘伝書を中心に分かり易い解説文が展示されています。主なものは、流鏑馬・犬追物・草鹿・笠懸・母衣・大的・太刀・軍扇・旗・鎧・幕・軍詞・虎之巻・暮目の実物・犬追物のジオラマ・血判を押した起請文などです。

◇伊豆木での生活と領民とのかかわり

殿さまや家族が使用した金屏風・お膳・重箱・湯筒・盃・杯洗・柄杓・酒器・しゃもじ・貝覆・広蓋などの日用品、城下のきまり・制札・目安筐など領民とのかかわりを示すものが展示されています。

◇上記の他、一定期間特別展示が行われます。

